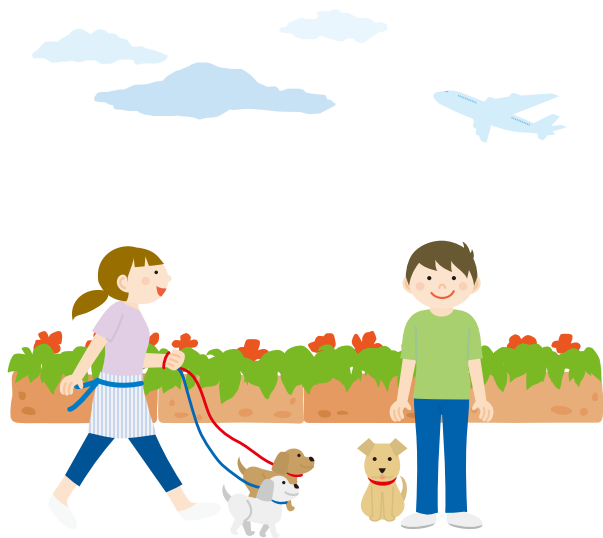
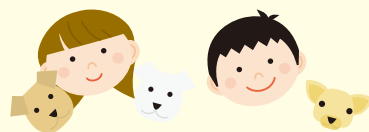


社会化の重要性



犬の生後3週から12週頃の時期は「社会化期」と呼ばれます。この時期に子犬は同種の犬や人間社会との関わりかたを学び、環境内のさまざまな刺激に対して適切な行動をとれるようになっていき、この過程を「社会化」といいます。社会との関わり方を子犬が学習する機会をもたないと、成犬になってから極度な怖がりになったり、恐怖に起因する攻撃性や吠え等の問題行動が発達したりしやすく、そういった犬と一緒に生活することは、飼い主にとっても大変なことです。犬と飼い主の関係をより良いものとするためにも、子犬の時期にしっかりと社会化を行うことを意識しましょう。



子犬の社会化とは



ワンちゃんとの
楽しい生活のために！



動物病院名

マルピー・ライフテック株式会社
加隈良枝先生（帝京科学大学）監修・執筆

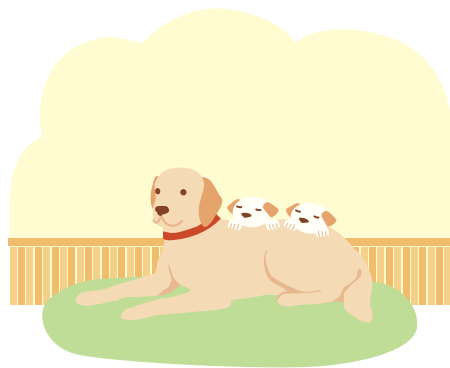
社会化期のしくみ



子犬はとても未熟で目も耳もまだ開いていない状態で生まれてきて、脳を含む身体の成長が誕生後も続きます。子犬は生後まもないうちは、温かく柔らかい母犬の感触とにおいを頼りに過ごしますが、生後3週ほどになり目や耳が開くと、周囲のさまざまな物が目に映り、音が耳に入るようになって、たくさんの刺激がシャワーのように降り注ぎます。そのときに周囲との関わりをどんどん学習できるように、この時期には犬の恐怖心が弱まり好奇心が旺盛になるのです。

ただしこの3～12週齢*というのは平均的な範囲を示すものであり、学習が盛んな時期には個体差があります。また、行動の発達のかたには犬種や体格による違いもあり、たとえば大型犬は成長も遅い傾向があります。そのため、この時期を目安として、子犬の様子をよく観察しながら、適切に社会化をさせることが必要です。

*「社会化の重要性」を参照ください。



社会化の方法



まず、将来接する可能性のあるさまざまな刺激に穏やかに出合わせることを心がけましょう。様々なタイプの人、他の犬や動物、家庭内外の物や機械、音などに、なるべく楽しく出会う経験を積ませるようにします。特に怖がりな子犬の場合は、強すぎる刺激を与えると逆効果になることもあるので気をつけましょう。

なお、出会ったことがないものすべてを、成長後こわがるようになるわけではありません。**社会化によって、その犬の許容範囲の幅を広げることができます。**怖がりな子犬はその幅がとても狭いので、ゆっくり少しずつ広げてあげることが必要ですが、幅がある程度広がっていけば、生活のなかの色々なタイプの刺激はたいていその範囲内に収まるので、それほど怖がらなくなります。

また、社会化期に十分な社会化ができておらず、臆病になってしまった成犬も、苦手な刺激に徐々に慣らしていく練習（しゅんか馴化）や、おやつなどのうれしいものに関連付けて覚えさせることを根気よく続けることでかなり改善することはできますが、子犬の社会化に比べて時間と手間がかかります。



確実な社会化のために



最近の法改正により、犬に十分な社会化の機会を与えるために、生後8週齢以下の子犬の販売が禁止されることになりました。平成28年9月からは移行措置により生後7週齢以下が規制されています。子犬を購入するときは、社会化に十分配慮している業者等から入手するようにしましょう。また、自宅や家族だけでは十分な社会化ができないと思ったら、動物病院等で開催されている犬の社会化教室（パピーパーティやパピークラス）に参加してみましょう。他の子犬とも適切に出会う経験をすることができ、また、飼い始めの様々な悩みも相談できます。

